

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O195700075		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム上幌向 1階ユニット		
所在地	岩見沢市上幌向北1条4丁目750-6		
自己評価作成日	2025/11/14	評価結果市町村受理日	2025/12/19

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022.kani=true&JigvosyoCd=0195700075-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2025年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所はJR上幌向駅より徒歩2～3分と交通の利便性が高い立地条件。国道側は線路があり電車や車の行き交う様子を見る事が出来、反対側は目の前が畑となっている。周辺は閑静な住宅街が多く、春は桜が咲き、夏から秋にかけて畑の作物が育ち収穫までの風景が確認でき、冬は一面雪景色へ変化し四季の変化が視覚的に感じやすい環境になっている。ホーム内は居間・食堂を中心に東西へ直線状の廊下があり、左右それぞれに居室があり利用者様の行き来が確認しやすい構造になっている。利用者様は居室や共有スペースで趣味活動をする方、日課で好きなテレビ番組を見るなど入居後も生活スタイルが大きく変わらず概ね自由に過ごす事が可能になっている。毎月行事開催を目標に掲げ、季節行事開催や誕生日会、町内行事参加の実績もあり、特に夏祭りやクリスマス会はホームの大型イベントとしてたくさんのご家族様も来館され一緒に楽しむ事ができるように取り組んでいる。感染症発生等の有事を除いては面会・外出・外泊の制限を設けずご家族含め社会との繋がりが保たれるよう意識をしている。国道の対面に協力医療機関があり、訪問診療や体調不良時のフォローを得る事が可能になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホーム上幌向」は、JR上幌向駅から徒歩数分、幹線道路からも近い利便性の高い立地にあるが、事業所前は畑が広がる静かな住宅地に位置する2階建て2ユニットの事業所である。共用空間と居室には床暖房を設置しており、冬季でも室内の温度差がなく、快適に過ごせる環境となっている。建物は広い造りで、居間と食堂が廊下で分かれてるほか、直線的で広い廊下を活かして日常的に歩行訓練が行われている。利用開始前は歩行器を使用していた利用者が手すりを使い歩行できるようになるなど、身体機能の維持や改善にもつながっている。バルコニーからは花壇や菜園の作物の生長を眺めることができ、四季の変化を感じながら生活を楽しむことができる。季節行事や壁の装飾は職員と一緒に取組み、参加の機会を大切にしているほか、年2回の歌謡ショーボランティアの来訪も楽しみとなっている。職員は部屋でひとり過ごすことの多い利用者にも適時、声かけや行事への参加を促す働きかけを気持ちに寄り添い行っている。管理者は職員の意見や提案を迅速に取り入れ、働きやすい職場環境作りに努めており、職員間の連携も良好である。職員は利用者により適切な支援となるよう日々協力し合い、穏やかに安心して暮らすことができる家庭的な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所横に理念を掲示し、職員や利用者様、来館者の方々も確認できる状態になっている。	理念について新入職員研修で説明し、外国人職員には内容を噛み砕いて丁寧に説明している。事業所の目指すサービスとして共有化を図り実践している。立ち戻る原点として「理念カード」を携帯している職員もいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	JR利用者や近隣の小中学生以外の人の流れがが少なく町内行事参加や散歩の時に人が居れば挨拶を交わす程度に留まっている。	町内会に加入し、地域の情報は回覧板で収集している。近隣の方から野菜の差入れがあり、年2回、歌謡ボランティアの受け入れも行っている。今年度は猛暑のため地域の盆踊りには参加できなかった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や入居相談、ご家族面会時の他運営推進会議でケア方法や現況報告を行っている。見学の場合はニーズをヒアリングしながら施設形態やサービス概要を説明し当ホームに限らず要望に沿えるような場所を提案する事がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議を開催し、包括支援センターや市からの情報提供やご家族様からの質疑応答など事業所報告に留まらず市内の情勢を聞く等の意見交換も行っている。	介護福祉課の担当職員、地域包括支援センター職員、利用者、複数の利用者家族の参加を得て、2か月ごとに開催し、意見交換が行われている。議事録は全家族に送付している。	各種報告事項だけではなく、年間1～2回ほどテーマを設定することを期待したい。また、意見や質問、それらに対するの回答等を議事録に記載するなど、議事録の整備に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点・相談はすぐ市役所の担当者へ確認を行っている。運営推進会議に参加頂いている事もあり関係性は良好と考えられる。	各種報告等は管理者がメールで行っている。運営推進会議に市の介護福祉課職員が参加しているため、情報の共有や質問等も行いやすく、協働関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上の都合で玄関を施錠しているが、それ以外には特に制限なく自由に行き来ができるようにしている。階移動する場合は危険を伴う為職員が必ず付き添っている。身体拘束に関する委員会や研修は定期的に行い、事業所としての考え方は概ね浸透している。	指針を整備し、「不適切ケア防止委員会」を3か月ごとに開催している。それに伴う研修を行い、2回目は3月の実施を予定している。研修後は各自研修報告書を提出し、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に委員会や研修開催により知識の向上、再確認できている。介護主任が軸となり職員への指導・助言を行う他、毎月のカンファレンスでケア方法の見直し・再確認を行い具体的な方針を揃えている。		

ふれあいの里 グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方は居るが、主に関わる管理者とケアマネージャーが把握している状態になっている。職員は制度は知っているものの詳細まで理解している割合は低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は説明の都度不明点がないか確認している。後日不明点が生まれるケースもある為、いつでも問合せ頂ければ回答する旨もお知らせしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頂いたご意見・要望があれば役職者で共有している。必要時は本社担当や職員との意見交換も行き反映に努めている。	運営推進会議に家族の参加があり、電話連絡時や面会時にも意見等を聞いている。3か月ごとのケアプラン見直し時に利用者の詳細な状況を文書で作成し、家族に伝えている。法人ホームページでも利用者の日常を写真で伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	役職に関わらず話しやすい関係性や環境整備は構築できていると思われる。各カンファレンス、管理者不在時は役職者から情報共有があり指揮系統や伝達も円滑で意見・提案はその場で決定・対応するか時間を要す場合は目安を伝えている。	職員は日常業務の中で気付いたこと等、その都度提案、相談している。ケアカンファレンスや全体会議等も意見が出しやすい環境となっている。職員は様々な役割を分担し、運営に参加している。有給休暇の取得も可能となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が主となり不要な残業が発生しないよう職員へ働きかけたり、その時の利用者状況や職員状況に応じ配置や方針を流動的に変化させ、職員へ掛かる負荷バランスを見ながら就労環境を調整している。また、職員の特性を踏まえ係分担や委員会を設定し介護以外の場面でも能力を発揮する機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の能力把握に努め、職員のキャリア形成の観点から資格取得や研修参加の提案を行っている。未経験者が入職した際は、当月中に基礎研修を受講し習熟度を見ながら最短で初任者研修受講できるよう調整を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の事業所間交流は他事業所の研修を参考に展開する等、管理者経由となっている。外部研修機会自体は少ないが資格取得研修にて交流を深めるケースが多い傾向にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時にケアマネージャーが主体となりご本人の意向確認し、入居後は意向に沿った生活実現に近づけられるような関係性構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・相談時や入居契約前、準備等において質問や相談を受ける事がある。ヒアリングしながら助言を必要な回答を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状は該当ケース無く、今後ご家族から他サービス利用の要望があれば検討していく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員本位ではなく利用者視点で物事を考えるようにして対応する事を心掛け、考え方が浸透するよう努めている。ほぼ全ての職員は共に暮らす者として関係性を築き接する事が出来ている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの相談があれば聞き取り対応・回答している。ご本人の問題に対して、ご家族介入が妥当な場合は協力を仰ぐ事もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の面会以外にも知人や親族の来館もあり、関係性が途切れないよう対応を心掛けている。	家族、親族や知人の来訪があり、居室での面会を行っている。携帯電話を持参している方には操作方法の支援を行い、電話の取り次ぎも行っている。家族と法事や墓参り、コンサートに出かけたり、外食、外泊をする方もいる。年賀状を受け取る方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の交流が図れるように職員が仲介し孤立しないように努めている。交流が難しい方は孤立する事なく職員との交流が主となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後は相談があれば助言やサポート体制は整えているものの、現状該当するケースが無い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員視点でなく利用者視点で何に困っているか、何がしたいかを考え実現できるように取り組んでいる。	意向を表出できる方が多く、日常の会話の中で聞き取っている。難しい方は表情の変化や些細な行動から思いを汲み取っている。訪問理美容師には事前に本人から好みの髪形を聞き伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集や課題分析を行い、その後は日常会話の中から生活歴など聞ける範囲で得た情報を集約し職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別で生活リズムや過ごし方を検討し、体調不良時は柔軟な対応が行えるよう配慮している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットカンファレンスにおいて、ケアマネージャーをはじめ、介護主任、職員とでサービス内容に対する意見交換や盛り込んでほしい内容、新たな課題等を協議し、結果をケアプランへ反映している。	ケアマネージャーを中心に3か月ごとにモニタリングを行い、ケア会議で検討し介護計画を3か月ごとに更新している。家族へは利用者の詳細な状況を文書で伝え、本人、家族の意向を取り入れ新しい介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事を介護記録へ記入し普段と異なる場合は職員間で口頭・記録の両方で情報共有をしている。全体周知は事務連絡ツール活用、スケジュール反映により職員が把握しやすいよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員は日々の変化に応じてニーズやそれに対するサービス内容・方法も変わるものと捉え個別的かつ毎日の状態に合わせた対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様それぞれが自分のペースで過ごされている。必要時は職員と一緒に、または声掛けで各自の出来る事を実践しながら生活をされている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望者はホームの協力医療機関ではなく元々のかかりつけ医療機関を利用され、関係性維持や適切な医療サポートが受けられるようにしている。	協力医の往診はユニットごとに月2回あり、事業所へは毎週来訪している。専門科の受診も医師の指示が受けられ、定期受診は家族が同行し、必要に応じて職員も同行支援を行っている。利用者ごとに「医療連携会議」を毎月1回行っている。	

ふれあいの里 グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の気づきや情報についてケアマネージャーが主体となり集約、医療機関へ情報提供に繋がっている。訪問診療では実際に携わる職員の気づきをベースに経過報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供はもちろん、入院期間中は定期的な状況確認と早期退院に向けた受入準備を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に指針を示し、同意を頂いた上で契約を締結している。各利用者様の身体状況に合わせて医師・家族・ケアマネージャーとの三者で終末期や今後の為の意向確認と情報共有を行い、必要時に円滑な対応が出来るようにしている。	利用開始時に重度化した場合の対応指針を説明し、事業所としてできることを説明している。重度化が進行した場合、本人、家族、医師と意思統一を図り、療養型施設への移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応の研修は行っているが実際の緊急対応は管理職が主に対応している。今後も職員に対し初期対応ができるよう研修等を継続していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施し、職員は災害時の対応方法等を学ぶ機会を確保できている。地域柄高齢世帯が多く近隣住民の積極的な協力が得にくい状況に変化してきている。	今年度、9月に1回目の夜間想定火災避難訓練を実施している。2回目の火災避難訓練と風水害に関連する垂直避難訓練を1～2月に実施予定である。	消防署の協力を得て、新入職員の消火器使用訓練を行いたい考えがあるので、その実行に期待したい。また、地域住民の方へ協力願いの声かけも期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対する適切な声掛けを心がけ、定期的に職員にも注意喚起を行っている。相手の目線に立つ事を意識して全職員が取り組めるよう働きかけている。	職員ごとの自己評価に基づき個別に必要な研修を受け認知症の理解や接遇を学び、利用者の尊厳を重視した接遇を徹底している。個人記録等の書類は厳重に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が話しかけられた方場合は傾聴し意向の把握に努め、可能な方には自己決定できる機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	飲食時間帯を除き、個々のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方はご自分で選択し介助が必要な方でも個々の嗜好に合わせ、元々好んでいた物等を職員が選択しその中から選んでもらえるよう心掛けている。		

ふれあいの里 グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好や食事形態を考慮して食事提供している。食後の下膳や食器洗い・片付けは主に女性利用者様にお手伝いして頂いている。	事業所の畑の食材も加え調理担当者が形状や量、味の好み等を利用者に合わせて提供している。節分に恵方巻と一緒に作ったり、誕生日は職員手作りケーキでお祝いをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立を基に調理、食事提供を行っており栄養バランスは整っている。個々の摂取可能な量で提供し、必要時は介助を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に職員が声掛けや介助を行い口腔ケアができるようにしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し不快な状態が長引かないようトイレ案内や夜間パット交換時間や頻度の検討を重ねている。車椅子の方も日中はトイレ案内し排泄支援を継続している。体調不良時は状態に合わせて内容を変更し本人の負担を考えながら検討している。	利用者ごとに排泄記録を確認し経過時間と様子を観察し、他者にわからないよう適切な声かけでトイレへ誘導している。ほぼ日中はトイレで便座に腰掛け排泄ができており、失敗せず快適に排泄ができる支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を日課に行い、飲食面では乳酸菌飲料たヨーグルト提供等で便秘改善に努めている。その他医師へ相談し適宜下剤調整も行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数を維持する為に原則曜日設定しているが、体調やその日気分に合わせて柔軟に入浴日の調整を行っている。午前入浴できない場合は午後に入浴再検討する事もある。	平日午前入浴時間は利用者ごとに湯を入れ替え好みの湯温で職員との個別の会話を楽しめるよう配慮した支援を行っている。自分好みのシャンプーや入浴剤を使っている利用者もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の年齢や体調等を考慮して声掛けや介助で休息時間を設ける事がある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	嚥下機能や薬量を考慮して内服方法を個別的に変更し、かつ処方変更時は職員が薬事情報や作用・副作用を自主的に調べる事が多い。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や生活歴に沿って役割を持って過ごして頂けるに働きかけている。生活の中で気分転換や楽しみごとが発見できるようにレクを毎日提供している。塗り絵が日課になっている方もいる。			

ふれあいの里 グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の方と一緒に外出・外泊され、外食、野球観戦や好きな歌手のコンサートへ行かれた方もいた。ホームとして春先に花見や畑作業を行ったが、夏は気温が高く屋外活動は控えたがご家族とお盆の墓参りで外出される方が数名いた。	利用者の体力や筋力の低下により集団での外出は控えているが、個別に散歩したり事業所の畑の成育状況を確認するため屋外へ出る事がある。家族対応で様々な所へ出かけている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで立替している為に金銭を使う場面はないが、小銭を所持し近所の自動販売機で飲み物を購入される方が居る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人またはご家族より要望があれば職員が仲介して電話を掛ける・受ける事ができている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには不要な物をできるだけ置かず、季節感のある掲示物を主に飾っている。居間は静かな時間帯が多くゆっくり過ごす事が可能。	明るく広いリビングには食卓テーブルを3か所配置し、テレビの前にソファを4つ配置して好みの場所で過ごしている。広い廊下は歩行訓練に最適であり、歩行器を使っていた利用者が手すりに掴まって歩けるようになった事例がある。廊下や共有空間、居室も床暖房で暖かく快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	飲食時には座席指定だが、その他は制限なく利用できるようにしている。しかしながら、居室で好きなように過ごされる割合が高い。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居案内時にご家族へ使い慣れた物、趣味活動に使う物、好きな物の持込を依頼し、環境変化の影響が少なくなるように配慮している。	馴染みの物品を持ち込み自分らしく過ごせる部屋になっている。棒針で編み物を楽しんでいる利用者や、仏壇を持ってきたり家族の写真など大切なものに囲まれて安心して過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日課や食事時間帯、トイレの場所が分かるよう文字やイラストで掲示している。部屋の区別が付きにくい方に対し花を飾る等目印を設置している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O195700075		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム上幌向 2階ユニット		
所在地	岩見沢市上幌向北1条4丁目750-6		
自己評価作成日	2025/11/12	評価結果市町村受理日	2025/12/19

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022_kani=true&JigvosyoCd=0195700075-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所はJR上幌向駅より徒歩2～3分と交通の利便性が高い立地条件。国道側は線路があり電車や車の行き交う様子を見る事が出来、反対側は目の前が畑となっている。周辺は閑静な住宅街が多く、春は桜が咲き、夏から秋にかけて畑の作物が育ち収穫までの風景が確認でき、冬は一面雪景色へ変化し四季の変化が視覚的に感じやすい環境になっている。ホーム内は居間・食堂を中心に東西へ直線状の廊下があり、左右それぞれに居室があり利用者様の行き来が確認しやすい構造になっている。利用者様は居室や共有スペースで趣味活動をする方、日課で好きなテレビ番組を見るなど入居後も生活スタイルが大きく変わらず概ね自由に過ごす事が可能になっている。毎月行事開催を目標に掲げ、季節行事開催や誕生日会、町内行事参加の実績もあり、特に夏祭りやクリスマス会はホームの大型イベントとしてたくさんのご家族様も来館され一緒に楽しむ事ができるように取り組んでいる。感染症発生等の有事を除いては面会・外出・外泊の制限を設けずご家族含め社会との繋がりが保たれるよう意識をしている。国道の対面に協力医療機関があり、訪問診療や体調不良時のフォローを得る事が可能になっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2025年11月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に掲示している理念をいつでも確認する事が可能となっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	人通りが元々少ない場所で日常的な交流は出来ないが、町内会に加入し季節行事への参加は可能な範囲で行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やご家族様に対して発信する事は可能だが、町内・近隣住民に対してできていない状況である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の頻度で運営推進会議を開催し、包括や市からの情報提供やご家族様や入居者様からの質疑応答など事業所報告に留まらず意見交換や話し合いが実現できている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば行政へ確認を行い一定の関係性は構築できているものと考えられる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会・研修機会を確保し身体拘束廃止に向けた取組を行っている。また、各利用者様特に制限なく自由行き来できている。不明な点があれば包括へ相談、助言を受けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会・研修の定期開催に加え役職者が主となり適切ではない対応が確認できた場合には指導し修正を促している。		

ふれあいの里 グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいるものの制度に関し職員への学習機会がなく管理者が把握している現状である。今後は職員にも学ぶ機会を設ける事が出来るよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は項目または説明ごとに不明な点が無いか確認している。特に費用に関する部分やご家族対応が含まれる部分についてより丁寧な説明を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各会議において寄せられた意見を共有し改善・反映方法について協議をしている。事例によって役職会議を行う事もある。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットカンファレンスや全体会議、その他随時職員からの質問や意見などあれば直接管理者へ言いやすい環境が概ねできている。可能なものに関し会議等を経て変更・改善し反映するよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は労務管理全般を担い、不要な残業が発生しないように業務内容や勤務体制の見直しを随時行っている。実際に携わる職員との意見交換も行いながら就業環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修を実施しているが、実践し向上が認められる者と変化が少ない者との混在し自発的な知識の習得機会も殆ど無い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の交流は研修等を通じて少なからず発生しているが、社外との交流機会は多く確保できているとは言えない現状がある。職員の外部研修を通じ交流機会の確保に努めたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時にケアマネージャーが主体となり本人様の意向や考え等の聞き取りを行い、入居後は可能な範囲で実現でき生活に支障がでないよう関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入居契約前～入居準備等において直接または電話連絡等で相談を受け困っている事に対して助言を行ったり要望があれば確認の上回答するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	原則、事業所内で実現可能な範囲においてケアプラン作成しサービス提供しているが、ご家族から他サービス利用について要望があった際は検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員本位ではなく利用者視点で物事を考えるようにして対応する事を心掛けている。概ね殆どの職員は共に暮らす者として接する事が出来ている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの相談を受けるケースや本人の問題の為に家族の方へ協力をお願いする事もある。家族の面会も特に制限なく可能で希望があれば対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の面会以外にも近隣住民・友人等の来館も稀にあり、各利用者様が築いてきた関係性が途切れないよう対応を心掛けている。また、長年通ってきた美容院へも継続して通い続ける入居者様もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の交流が図れるように職員が仲介する事で孤立しないように努めている。それでも交流が難しい方については利用者同士ではなく職員との交流機会が確保できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後は相談があれば可能な範囲において助言やサポートできる体制を整えている。施設での日々の写真をお渡しした入居者様もいた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を伝えられる入居者様には聞き取りを行っている。困難な場合はご本人の行動を確認、観察しながらカンファレンスで検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集を行い、その後は日常会話の中から生活歴など聞ける範囲で情報収集し職員間でも共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は殆どの職員が把握できている。心身状態等の変化は都度気付いた職員が他職員に伝えるなど情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前、本人様や家族様から課題抽出を行いユニットカンファレンスにおいて、サービス内容に対する意見交換や盛り込んでほしい内容、新たな課題等を協議している。 その結果や協議内容を基にケアプランへ反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応事項は随時介護記録へ記入しその経過が把握できるよう努めている。個人レベルで表現方法の良し悪しはあるが随時修正ポイントの説明を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員は日々の変化に応じてニーズやそれに対するサービス内容・方法も変わるものと捉え個別的かつ毎日の状態に合わせた対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様それぞれが自分のペースで過ごされている。必要時は職員と一緒に、または声掛けで各自の出来る事を実践しながら生活をされている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望時は事業所で設定した協力医療機関ではなく、既存のかかりつけ医療機関を受診し今まで通りの関係性確保並びに適切な医療を受けられるよう支援している。		

ふれあいの里 グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の気づきや情報についてケアマネージャーが主体となり集約し、医療機関へ情報提供に繋がっている。往診も同様の体制でその時の体調に応じた診療が受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はできる限りご家族に同行し医師の説明を聞いて情報提供を行っている。また、状況確認を病院にとり情報共有を行い、早期退院に向けた受入体制の準備ができるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に指針を示し、同意を頂いた上で契約を締結している。また、各利用者様の身体状況に合わせて意向確認するケースを医師が主体となり家族・施設職員との三者で意向確認を行い、有る際は円滑な対応が出来るよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応について職員研修済だが、実際の初期対応は管理職が主となるケースが多い。今後も職員に対して定期的な研修・確認を含め初期対応の知見を深める事が出来るよう取り組んでいく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施し、災害時の対応方法等を職員が学べる機会を確保している。地域柄ご高齢の世帯が多い事から近隣住民の積極的な協力は得難い現状もある。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対しての適切な声掛けを心がけ、定期的に職員にも注意喚起を行っている。相手の目線に立つ事を意識して全職員が取り組めるよう働きかけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員へ話しかけられる方に対して傾聴し希望を確認している。選択可能な場合において、自己決定できる場面を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合で進めるのではなく、利用者主体で相手の立場になって考え物事を進める(支援する)ように随時取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方はご自分で好きなものを着ている。介助が必要な方でも個々の嗜好に合わせた服を職員が選んでいる。女性入居者様は昔からの化粧品を使われている。		

ふれあいの里 グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は食事形態や各制限を考慮し個別に対応している。また、できる方には家事参加や食器拭きや茶わん洗いのお手伝いをお願いし、加えて可能な範囲で下膳もして頂けるよう声掛けを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立を基に調理、食事提供を行っており栄養バランスは担保されて椅いる。摂取量については一人ひとりに合わせた内容を検討し提供、場合により介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には声掛けおよび職員が介助で口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しながらトイレ案内や夜間のパット類交換等対応時間を検討している。体調変化不良時は本人に合わせ柔軟に対応している。車椅子の方も日中はトイレに案内し排泄支援を継続している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操に加えて乳酸菌飲料、おやつにヨーグルトを提供する等して便秘解消されるよう取り組んでいる。その他医師へ相談の上、下剤調整も適宜行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数を割らない為に原則曜日設定をしているが、体調に合わせて柔軟に入浴日の調整を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体調等を考慮して休憩時間を設けている。また、居室の温度は各居室個別対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	嚥下機能や薬量を考慮して内服方法を個別に変更している。薬の目的、副作用は細部まで把握している職員の割合が低く今後勉強の機会が必要なものの自主的に何の薬か確認している場面も多く見られる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や生活歴に沿って役割を持って過ごして頂けるに働きかけている。生活の中で気分転換や楽しみごとが発見できるようにレクを毎日提供している。		

ふれあいの里 グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	原則ご家族の方と一緒に戸外へ外出・外泊されている。事業所の対応として町内行事や季節の移り変わりを肌で感じ取って頂く為に花見や紅葉見学の機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方は所持していないが、小銭程度を所持し近所の自動販売機で飲み物を購入される方が居る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人またはご家族より要望があれば職員が仲介して電話をする事ができている。手紙・ハガキが届く事はあるものの自ら送る方は現在いない状況。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには不要な物をできるだけ置かず、季節感のある掲示物を飾っている。空間は静かな事が多くゆっくりと過ごしやすい状態になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎食時の座席のみ指定があり、それ以外の決め事は定めず自由に利用できるようにしているが、居室で過ごされる方の割合が高くなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族に対して使い慣れた物やご本人の趣味活動に使う物、お気に入りの物があれば持込をお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースにはできるだけ物を置かず人や車椅子の移動で不具合がないか職員と意見交換・検証しながらレイアウトを決めている。		